

## 用語

**移動放獣**：捕獲したクマ類を、捕獲地点と異なった地点に運び放獣すること。

**奥山**：人里から離れ、集落や農地がほとんどない森林あるいは自然植生で被われた地域。一般に源流域や高標高地が相当する。

**奥山放獣**：捕獲したクマ類を、奥山に移動放獣する方法。

**学習放獣**：捕獲したクマ類を放獣する際にカプサイシン（トウガラシ成分；クマ撃退スプレ어의主要成分）などクマが忌避する物質を噴霧するあるいは爆竹を鳴らす、檻を叩くなど忌避条件付けを行うことで再出没の抑制を図る方法。

**緩衝帯整備**：農地や集落などに隣接する森林の林縁部やその周囲の森林において、野生動物の出没を抑制するために伐採や刈り払いなどの環境整備を実施すること。

**クマ類**：本マニュアルでは国内に生息するヒグマとツキノワグマをあわせてクマ類とする。区別が必要な場合はヒグマあるいはツキノワグマと記す。ただし、文中で両種の区別が不要な場合にクマと示すこともある。

**錯誤捕獲**：捕獲対象以外の鳥獣が誤って捕獲されること。錯誤捕獲された個体は原則として放獣しなければならない。錯誤捕獲は、捕獲従事者や通行人、放獣作業実施者の安全上のリスクや生態系（対象動物以外の種）へのインパクト、アニマルウェルフェア上の問題を含め多種の問題を孕んでいる。

**里地里山**：原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域を指す。農林業などに伴うさまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきた。

**住居集合地域等**：鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律において、住居が集合している地域又は広場、駅その他の多数の者の集合する場所を指す。この区域では銃猟が禁止されている。

**ゾーニング**：野生動物の生息状況や生息環境、人間活動等を考慮して、人と野生動物の棲み分けを図ることを目的に地域を区分すること。また、それぞれの地域の管理目標の下で施策等を実施していくことを野生動物に対するゾーニング管理という。

**大量出没**：例年と比較して多くのクマ類が恒常的生息域外である人里に出没し、人里での目撃、人身被害等が多発する状況を示す。

**地域個体群**：遺伝的特性、生態的特性及び山塊などの地理的要因により分けられた生物種の集団のこと。